

BUDŌ

NEWS

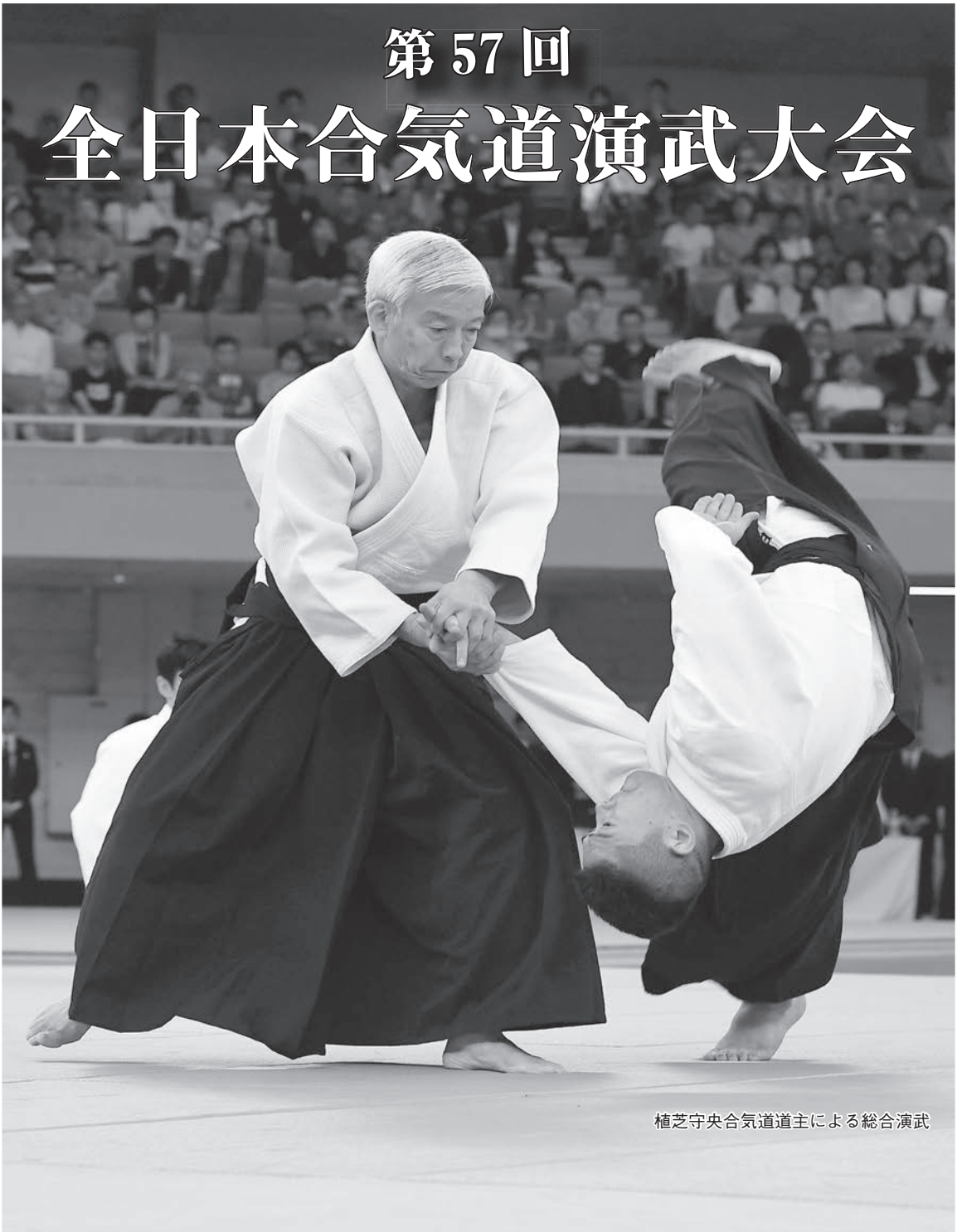
今月のニュース



第57回全日本合気道演武大会



第57回 全日本合気道演武大会



植芝守中央合気道道主による総合演武

令和に繋げ万有愛護の心



山谷えり子参議院議員・
日本武道館理事・合気会理事



臼井日出男日本武道館理事長



植芝守央合気道道主



多田宏本部師範



植芝充央本部道場長

第57回全日本合気道演武大会（主催Ⅱ合気会、後援Ⅱ日本武道館ほか）は5月26日、日本武道館で開催された。

大会には、植芝守央合気道道主、植芝充央合気会本部道場長ほか合気道本部道場指導部師範、同指導員、全国各地や海外支部などから集まった師範、修業者、約8000名が出場し、出場者を含めると約1万人の観客が集まった。演武者は開祖植芝盛平翁が大切にされた「万有愛護」（ばんゆうあいご）（他者と勝敗をつけるのではなく、人と和する事が大切である）の精神のもと、厳しい稽古の先にある、合気の心を求めて演武を行った。



開会式は定刻の正午に始まった。可児晋大会副会長・合気会理事による開会の辞のあと、植芝守央合気道道主が主催者挨拶を行った。

「今年は令和の時代が幕を開けた最初の大会になります。新しき時代を迎えましたが、全日本合気道演武大会の意義はどの時代においても決して変わらず、また、公益財団法人合気会においては最大の行事になります。植芝吉祥丸二代道主が、戦後の

本部道場指導部師範演武



栗林孝典師範



小林幸光師範



佐々木貞樹師範



磯山博師範



安野正敏師範



金澤威師範



藤巻宏師範



菅原繁師範

合気道の先頭に立ち、普及する中で、第1回全日本合気道演武大会が開催され、それが57年の永きに亘って継続してきたことは合気会にとって大変な財産であろうと思います。現在、開祖植芝盛平翁が作り上げた技法と熱意は多くの国々で理解され、世界140の国と地域で広まっております。これは演武大会を積み重ねてきたことが大きな要因であると思っております。和合の精神を大切に日々淡々と稽古する私たちにとって本大会は稽古の成果を確認する最高の場だと確信しております。本日演武される方々は先達の方々に感謝の念を持ち、演武に臨んでいただきたいと思います」

次に臼井日出男日本武道館理事長が来賓挨拶を行った。

「各武道団体が日本武道館で大会を行います。本大会は武道大会の中でも最大の動員数で大会を行っています。心から敬意を表します。さて、今、みなさんがおられるこの場所は日本の武道を伝導する場所であり、私たちが武道の発展のために今まで努力して参りました。武道は武士道に由来し、日本人の精神的指



森智洋師範



伊藤眞師範



難波弘之師範



関昭二師範



遠藤征一郎師範



鳥海幸一師範



桜井寛幸師範



鈴木俊雄師範



桂田英路師範



入江嘉信師範



横田愛明師範

標になっております。近年合気道の優れた精神性が、日本国内だけでなく、海外にも認められております。本日ご参加の方々は日頃の成果を十分発揮し、大会を大いに盛り上げていただきたいと思っております」

その後、山谷えり子参議院議員・日本武道館理事・合気会理事が挨拶に立った。

「道場に行くときは本当に身体中お稽古ができる喜びでいっぱいになります。そしてお稽古を終えて、道場

各道場師範演武



小林保雄合気道小林道場総師範



竹中日出雄竹豊館師範



窪田育弘奈良合気会師範



木村二郎合気道大阪武育会師範



日高浩岩手県営武道館師範



溝口守宏守清館師範



船越光雄山形道場師範

を出るときには清らかで静かな調和
 感で満たされます。一回一回のお稽
 古が本当に新鮮です。合気道を稽古
 していると対立を超えた豊かさや調
 和感、清らかさを感じることができ
 ます。令和の時代も美しい調和に満
 ち、力強い時代にするため、合気道
 を通じて勉強したいと思います」

その後、高鳥修一衆議院議員、山
 田美樹衆議院議員が挨拶をし、来賓
 紹介、高村正彦日本武道館会長、小
 池百合子東京都知事からの祝電が披
 露され、演武に移った。

演武は第1部と第2部の2部構成
 で行われた。

第1部は関東学生合気道連盟によ
 るエネルギーシユな演武から開始。
 規定時間1分30秒の中で各団体の参
 加者は日頃の練習の成果を思う存分
 に発揮していく。その表情は引き締
 まっている者、和やかな者、愉しげ
 な者など多種多様。しかしながら、
 演武を終えた者は一様に喜びに満ち
 ていた。第1部の結びは植芝充央本
 部道場長の演武。立ち技、多人数掛
 けなど気迫に満ちた自由演武に客席
 からは大きな拍手が送られた。

第2部は第1部と同様に学生連盟



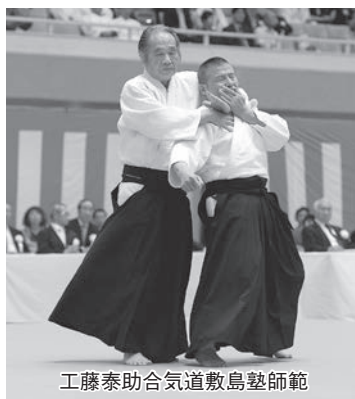
五十嵐和男合気道五十嵐道場道場長



高本和宣熊本合気会水前寺道場長



畑山憲吾合気道研心会師範



工藤泰助合気道敷島塾師範



本澤俊三（公財）大阪合気会師範



菅沼守人合気道祥平塾道場長



和田昭名古屋合気会師範

演武から始まり、高校生、中学生の元氣一杯の演武が見られる。また、海外道場からの参加もあり、国際色豊かな演武で、合気道の世界的な普及を一層感じさせた。

終盤は本部道場少年部による愛らしくも一生懸命な演武が披露された後、本部道場一般部、師範演武、自由演武と続いた。そして、自由演武の掉尾を飾ったのは本年12月に御年90歳を迎える多田宏本部道場師範。立ち技や杖技を雄渾な、熟練された動きで披露する。その圧巻の演武に客席からは驚嘆の声が漏れた。

大会全体を締め括るのは植芝守央合気道道主。その演武を一目見ようと観客は演武場へ熱い眼差しを向ける。道主は立ち技、座り技、半身半立ち技、太刀取り、杖取り、多人数掛けを披露し、演武を終えると、観客からはこの日一番の惜しみない拍手が送られた。

道主への花束贈呈の後、林典夫合気会常務理事が閉会の辞を述べ、大会は盛会裡に幕を閉じた。

○来年は日本武道館が改修工事のため、第58回全日本合気道演武大会は5月16日、高崎アリーナで開催されます。

◎植芝守央合気道道主インタビュー

合気道演武大会の歴史を振り返って



植芝守央合気道道主

がとても高いと感じています。年に一度、みなさんがこの舞台で演武を行えることに深い喜びと誇りを持っております」

○長い歴史を持つ演武大会の中で特に思い出に残ることについて

「57年間の歴史を持つ全日本合気道演武大会。令和初となる本大会を記念し、植芝守央合気道道主にお話を伺った。

○合気道演武大会を日本武道館で開催することについて

「第15回大会から全日本合気道演武大会は日本武道館で開催しております。今年は57回大会なので、もう40回以上こちらの会場を使用しています。日本の中心である千代田区にある日本武道館を使わせていただくということは国内各地域の人たちから見て、ステータス

武に臨んだことです。

合気道は明治の終わりから大正にかけて、原型が出来上がりましたが、戦前までは一般に門戸を開きませんでした。それが、終戦を迎えて、昭和24年から一般に門戸を開き、定期稽古を開始したのが、二代吉祥丸道主の時でした。その歴史の中で公開演武を行い、広く合気道を普及するきっかけになったのが全日本合気道演武大会だと思います。

長い合気道の歴史の中で私が二代道主から道統を受け継ぎ、現在は日本武道館を埋め尽くす程の多くの人が合気道演武大会に来るようになっていたということを改めて実感しています。そして、大会会場の変遷や参加者が増加しても合気道の本質は変わらないということも同時に深く感じております」

○東京2020五輪が開催されることについて合気道はどのように関わっていききたいでしょうか

「まずは、日本の伝統武道である柔道と空手道がオリンピックの種目になり、非常に喜ばしく思っております

す。その際にチャンスがあれば、伝統的な日本の武道を多くの方に見ていただきたいと考えております。前の東京オリンピックの時には剣道・弓道・相撲の3種目が演武を行っていました。今回の2020大会では合気道はもちろん、合気道以外の武道も実施できたらと思っております。そのためにはオリンピック委員会等にお話をしているのです、それが実現に至るよう努力を重ねて参ります」

○令和最初の演武大会となりました。今後、どのように発展させていきたいでしょうか

「昭和、平成、令和と少しずつ社会は変化していきませんが、合気道の教えは何も変わりません。しかし、新しい時代が変わったということと心新たに、令和もよい時代にしていききたいと考えております。変わっていく時代の中でも合気道の稽古は淡々と続け、演武大会もそれに沿って、しっかりと、一歩一歩進めていききたいと考えております」

全日本合気道演武大会に参加して

○中央区合気会Ⅱ武藤亜紀子さん



「年に一度の大会なので、皆、気持ちを高めて臨んで

いますが、今回は令和最初ということもあり、より緊張感を持って臨みました。演武の出来は100%とはいきませんが、大会では多くの先生の演武を見ることができ、非常に刺激になり、勉強になりました。日本武道館という大きな舞台で合気道演武大会に参加するようになり、合気道を通じて世界中の人と交流したり、高め合ったりすることができると感じています。改めて日本武道館が日本武道の精神を受け継ぐ場であり、伝える場であると実感しています」

○関西学生合気道連盟Ⅱ石井亮介さん（左）、秋山菜々美さん（右）



を見ることができ、とても勉強になりました。日本武道館という歴史的な建物での演武大会に参加することはとても大きな意味があると思います。来年、改修工事で使えないというのが非常に残念です。合気道は人と人とのつながりを深く感じることが

りました。合気道を学んでみて、礼儀が身につく、細かいところにも気がつくことができるようになるため、自分のためになる部分が多くあると感じています」

秋山さん「初めての演武大会出場ということもあってとても緊張していましたが、演武してみると自分のできていない部分を再確認できました。また、他の方の演武を見ることができ、多くのことを学び、得ることができ、非常にいい経験になりました。合気道は縦の繋がりが深く、様々な人と関わることで、とても魅力があると思います」

○仲池合気道同好会Ⅱビクター・ソルキンスさん



「（参加してみても）非常に楽しかったです。演武をし

○奈良合気会Ⅱ米田圭一郎さん



「世界中の人們が一堂に会場に集まって演武を行

石井さん「自分の系列の師範の演武を見て、非常に素晴らしいと思いました。また、普段見られないような演武を見ることもできて、勉強にな

ていた人たちもお客さんも一体となった大会だと思いました。私はラトビア出身で20年前に合気道を始めました。その後、7年前に日本にきて合気道を究めています。今後も合気道を続けて行きたいです」



登録道場・社会人団体・学生団体演武



好評発売中

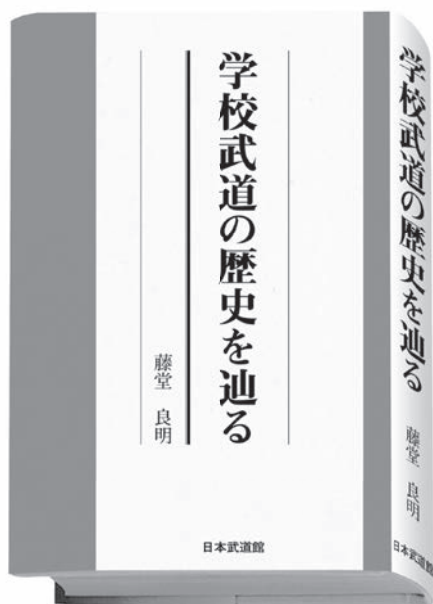
 とうとう よしあき
藤堂良明 (筑波大学名誉教授) 著

学校武道の歴史を辿る

四六判・上製・354頁・本体2400円＋税

江戸時代の藩学教育に遡る学校武道の歴史。明治維新を迎え武術は衰退したが、近代化の過程で武道が「人間形成の道」として学校制度のなかに組み込まれ発展した。太平洋戦争後に武道は全面禁止となるが、それを乗り越え「格技」として復活、平成20年には「中学校武道必修化」が実現した。

学校武道の歴史を丹念に辿り、今後のあり方を探る。



著者略歴

藤堂良明 (とうどう よしあき)

1949年(昭和24)、埼玉県生まれ。東京教育大学体育学研究科修士課程修了。筑波大学教授(体育科学系)、同大学体育専門学群副学群長、同大学附属中学校長、全国国立大学附属学校連盟会長、日本教育大学協会副会長、日本武道学会理事、全日本柔道連盟教育普及委員会委員などを歴任。

現在、筑波大学名誉教授。博士(学術)。柔道七段。埼玉県柔道連盟副理事長。日本古武道協会常任理事。

目次

- 第1部 江戸時代の学校武道**
 - 第1章 藩学の創設と文武学習
 - 第2章 藩学における教育目標
 - 第3章 藩学における武芸教育
- 第2部 明治時代の学校武道**
 - 第4章 武芸の衰退と学校教育制度の確立
 - 第5章 学校武術採用に関する体操伝習所の答申
 - 第6章 山岡鉄舟と嘉納治五郎
 - 第7章 嘉納治五郎の学校柔道普及戦略
 - 第8章 明治期の学校における武術の普及状況
 - 第9章 武術の正課採用への歩み
- 第3部 大正時代の学校武道**
 - 第10章 文部省主催武術講習会の目的と内容
 - 第11章 学校体操教授要目の制定と内容
 - 第12章 「学校体操教授要目」制定後の体育界の動向
 - 第13章 大日本武徳会の設立と影響
 - 第14章 学生武道の隆盛
 - 第15章 改正学校体操教授要目の制定と内容
- 第4部 昭和20年以前の学校武道**
 - 第16章 精力善用国民体育と学校武道
 - 第17章 柔・剣道が正課必修に
 - 第18章 戦前の学生武道大会の発展
 - 第19章 国民学校体操科の登場
 - 第20章 第二次大戦中の体操科武道
- 第5部 戦後の学校武道**
 - 第21章 戦後の学校武道の禁止と復活
 - 第22章 「格技」の誕生
 - 第23章 格技から武道へ
 - 第24章 中学校武道必修化の実現
 - 第25章 これからの学校武道のあり方

発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
 ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
 日本武道館出版広報課
 までどうぞ！

TEL03(3216)5147
 FAX03(3216)5158

好評発売中

合気道九段
多田 宏 著

合気道に活きる

四六判・上製・402頁・本体2400円＋税

昭和初期に生れ、戦後の早大生時代に植芝盛平、植芝吉祥丸、船越義珍、中村天風、日野正一の諸先生の教えを受け、合気道の稽古を生涯の道と志す。

昭和から平成への激動の時代に、本部道場師範を務め、各大学に合気会を創設、自らの道場も主宰し、さらに欧州各国への普及に尽力。合気道に活きた泰斗の軌跡を余すところなく示す珠玉の一冊。



多田 宏（ただひろし）

昭和4年（1929）12月14日生。東京都出身。早稲田大学第一法学部在学中の昭和25年、植芝道場入門、合気道を始める。植芝盛平先生、吉祥丸先生に師事。同年、天風会入会、中村天風先生に師事。同年、一合会道場入会、日野正一先生に師事。昭和27年早稲田大学卒業。合気道の稽古と日本武道の歴史研究を専門とする道に進む。合気道本部師範・防衛庁師範を務め、慶應義塾・学習院・早稲田の各大学合気道会設立に尽力、師範となる。昭和39年渡欧し、欧州各国での合気道普及に尽力。イタリア合気会を創設。
現在、合気会本部師範、早稲田大学合気道会名誉師範、東京大学合気道会名誉師範、イタリア合気会主任教授、国際合気道連盟委員など。また、合気道多田塾を主宰。合気道九段。

目次

第一章 生い立ち

- 一 原点
- 二 幼稚園から小学校時代
- 三 第一東京市立中学校

第二章 師との出会い

- 一 松濤 船越義珍先生
- 二 植芝盛平先生・吉祥丸先生
- 三 中村天風先生
- 四 鉄叟日野正一先生・みち系先生

第三章 生き方の方針

- 一 植芝道場 先輩の教え
- 二 命の基を訪ねて
- 三 一生の方針を定める

第四章 植芝盛平先生の教えと稽古

- 一 気の錬磨
- 二 合気道的心
- 三 心学の道、心法の道
- 四 稽古と法
- 五 稽古の目的、人の生き方
- 六 「機」について
- 七 錬る
- 八 自然な動き
- 九 場を主宰する

第五章 合気道の普及

- 一 合気道の発展
- 二 「気の流れ」の錬磨
- 三 ヨーロッパの合気道
- 四 合気道の国際的普及
- 五 気の流れと縁

第六章 呼吸法（調気の法） 終章 稽古を顧みる

発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

第41回 全日本高齢者武道大会

「健康維持は
手段です」



剣道・内閣総理大臣賞争奪戦＝常光（左）が面を決める

生きがい！ やりがい！
生涯武道！！

第41回全日本高齢者武道大会（主催Ⅱ全国老人福祉助成会、共催Ⅱ全日本高齢剣友会）が、生涯武道を目指す高齢剣士が集まって6月3日に日本武道館で開催された。参加者の最高齢は94歳で、80歳以上は220名、全体でおよそ800名の高齢剣士（53歳～94歳）が出場。「心、技、体」を競い合って矍鑠とした雄姿を見せた。剣道の寿A組優勝（85歳以上）の平山四郎（東京）からは、「生きがいである剣道を今後も続けるため、健康維持は目的ではなく、手段と捉えている」と所感が寄せられた。寿A組と寿B組（80歳以上）の優勝者による内閣総理大臣賞争奪戦では、寿B組優勝の常光彰（高知）が平山を二本勝で破り、内閣総理大臣賞を勝ち取った。

□ 剣道

■ 寿A組（85歳以上）

決勝は、平山四郎（東京）と弘中聖規（山口）の対戦。平山は、二刀流の弘中の動きを見極めて、面を先取。その後、弘中に小手を決められるものの、平山も小手を決めて勝利を収めた。

◎ 寿A組優勝Ⅱ

平山四郎（東京）

「入賞することは何度かありましたが、優勝は初めてのことでですので夢のようです。決勝では相手の動きをよく見て試合をやりました。ただ、それだけです。よく見ることが攻めることでもあるし、攻めることが守ることにも繋がるのですかね。稽古は週に2回、およそ1時間程度行っ



剣道・寿B組決勝＝常光（左）が面を決める



剣道・寿A組決勝＝平山（左）は二刀流の弘中と対戦



剣道・特組決勝＝長良（右）が鮮やかな面で優勝



剣道・女子個人戦決勝＝福田（左）がリーグ戦を制す

てます。よく『剣道をやっている健康だね』と人から言われますが、剣道をやりたいから健康に心掛けております」

■寿B組（80歳～84歳）

常光彰（高知）と西野侑則（茨城）の決勝戦。中盤に常光が勢いよく飛んで面を奪取。一本勝を果たした。

■内閣総理大臣賞争奪戦

寿A組の優勝者である平山四郎（東京）と寿B組の優勝者である常光彰（高知）の頂上決戦。平山が87歳、常光は80歳と寿組では若手である。動きで勝る常光が平山から面を2本奪取して、勝利。内閣総理大臣賞の栄に浴した。

◎内閣総理大臣賞・寿B組優勝Ⅱ

常光 彰（高知）

「今まで剣道が続けてきて本当によかったと思います。健康で稽古を続けられたので、この結果が出たのだと思います。私は80歳になったばかりですので寿の中では若手になります。普段の稽古で心掛けていることは、怪我をしないように楽しくやる

ことです」

■特組（75歳～79歳）

決勝は、長良武司（愛知）と高橋守（新潟）の対決。長良が鮮やかな面を決めて、優勝を飾った。

◎特組優勝Ⅱ

長良武司（愛知）

「よく出来たなと思います。毎年、1～2回戦で負けることが多いのですが、今日は面がよく打てたのかなと思います。普段は八段を目指して、仲間とともに稽古をしています。この大会は毎年、楽しみにしておりますので、これからも、身体が動く限り参加したいと思います」

■女子個人戦

福田智子（北海道）、小谷洋子（長野）、坂田文子（東京）によって決勝リーグ戦を行った。福田が見事に2連勝を果たし、優勝に輝いた。

◎女子個人戦優勝Ⅱ

福田智子（北海道）

「決勝はリーグ戦となり、長丁場でしたが、激しい動きをしていた訳ではないので体力的にきついことはあ



銃剣道・A組決勝＝小出（右）が下胴で初優勝



剣道・女子団体決勝＝岩手・古濱（左）が連取



銃剣道・C組決勝＝地頭菌（右）が下胴を決める



銃剣道・B組決勝＝神谷（左）が攻め立てる

りませんでした。気持ちを切らすことなく集中できたと思います」

■女子団体戦

岩手県と栃木県による決勝戦。先鋒戦では、栃木・堀部あけみが胴で一本勝。中堅戦は引分として迎えた大将戦で、岩手・古濱久美子は、栃木・木村双重から、立て続けに胴を連取して二本勝を決めた。総本数2―1で岩手が優勝した。

◎剣道女子団体優勝Ⅱ

岩手県・古濱久美子（大将）

「本当に嬉しいです。決勝の大将戦では、最後は胴しかないと、思いっきり行きました。普段は、週に2回、若い人も含めて、基本を重点的に稽古しています」

□銃剣道

■A組（75歳以上）

決勝は75歳でA組初出場の小出秋夫（静岡）と山田道夫（栃木）の対戦。互いに一本を決め、2本目の機を伺う。激戦の末に小出が山田に下胴を決めて、勝利。2―1で初優勝に輝いた。

◎A組優勝Ⅱ

小出秋夫（静岡）

「この大会は2010年から9年間ずっと出続けています。健康第一で、後は昔取った杵柄（きねがら）でやっています。ただし、大会の少し前からは少し稽古量を増やしています。そうしないと、大会当日はいいのですが、それ以降にダメージがきちゃいますからね（笑）」

■B組（65歳～74歳）

決勝は、神谷好美（愛知）と村井謙二（北海道）の初対戦となった。神谷が2―1で接戦を制して、優勝を飾った。

◎B組優勝Ⅱ

神谷好美（愛知）

「優勝できて、率直に嬉しいです。決勝の村井選手とはやったことがありませんでしたので、対戦を楽しみにしておりました。様々な技をお互いに使い合ったと感じましたが、今日はたまたま私が勝てました。次の対戦を楽しみにしています。大会での優勝に誇りを持って、後人の育成など、自分のやるべきことをやっていきたいと思っています」

■C組（55歳～64歳）

55歳で大会初出場の地頭薫（茨城）と水船一洋（北海道）の決勝戦では、地頭薫が下胴を決めて、1―0で決戦を制した。

◎C組優勝Ⅱ

地頭薫（茨城）

「若輩者ですので、先生方の胸を借りるつもりで来ました。無我夢中でやっていたら優勝できたという感じです。お年を召しても凛々（りんりん）としている先生方が多くいらつしやいます。55歳はまだまだひよつ子ですので、武道に対する態度や姿勢から習っていかなければと思います」

■団体戦

北海道と青森県の決勝戦。先鋒戦では、青森・相野照昭が一本勝。続く、中堅戦は北海道・村井謙二が一本勝を収め、五分の展開で大将戦となった。大将戦は、北海道・神村悦夫が連取して二本勝ち。北海道が2―1で優勝を達成した。

◎銃剣道団体優勝Ⅱ

北海道・神村悦夫（大将）

「今朝、靖国神社に参拝し、御霊（みたま）に悔いのない試合をすることを誓います」

した。各県の力は拮抗してますのでどこが勝ってもおかしくなく、結果は別とし、反省点が多い大会となりました。武道の殿堂である日本武道館に一堂に会して、銃剣道をするのが無上の喜びです」



銃剣道団体決勝・大将戦＝神村（左）の上胴で、北海道が優勝



大会結果

	組名	争奪戦	優勝	準優勝	3位
剣道	寿A（85歳以上）	内閣総理大臣賞 常光 彰 （高 知）	平山 四郎 （東 京）	弘中 聖規（山 口）	亀里 仁郎（群 馬） 海藤 敏雄（東 京）
	寿B（80歳～84歳）		常光 彰 （高 知）	西野 侑則（茨 城）	久澤 速雄（東 京） 藤井 勝丸（広 島）
	特（75歳～79歳）	長良 武司（愛 知）		高橋 守（新 潟）	松原 寛治（山 口） 茅 秋雄（神奈川）
	A（70歳～74歳）	眞谷 繁美（茨 城）		加藤 隆幸（神奈川）	田中 育男（東 京） 大場 智雄（神奈川）
	B（65歳～69歳）	千崎 武司（兵 庫）		小笠原 明（長 野）	小川 亜土（神奈川） 吉田 淳夫（福 井）
	C（55歳～64歳）	石神 邦彦（神奈川）		佐久間広昭（福 島）	坂下 尚志（岩 手） 向井 俊二（愛 媛）
	男子団体	東京都		神奈川県	愛媛県 新潟県
	女子個人戦	福田 智子（北海道）		小谷 洋子（長 野）	坂田 文子（東 京）
	女子団体	岩手県		栃木県	兵庫県 長野県
銃剣道	A（75歳以上）	小出 秋夫（静 岡）		山田 道夫（栃 木）	寺田 信二（愛 知） 鳴海 恵一（宮 城）
	B（65歳～74歳）	神谷 好美（愛 知）		村井 謙二（北海道）	和田 英明（千 葉） 對馬 孝利（青 森）
	C（55歳～64歳）	地頭薫 薫（茨 城）		水船 一洋（北海道）	渡邊 清吉（東 京） 相野 照昭（青 森）
	基本技（55歳以上）	神谷 好美（愛 知）		大森 隆仁（静 岡）	小出 秋夫（静 岡） 渡邊 清吉（東 京）
	団体	北海道		青森県	山口県 愛知県

山神眞一 著

(香川大学教授・同学部長、医学博士、剣道教士八段)

役に立つ少年剣道指導法

好評発売中

少年剣道指導の現場で役に立つ月刊「武道」好評連載を単行本化。現代の少年剣道が抱える様々な問題点に対して、長年教育現場で培った筆者の視点から解決の糸口を探っていく。少年剣道指導者必読の一書。
付録のDVDには、写真では伝え切れなかった実技関連の部分を収録時間1115分を超える映像で紹介。

解説DVD付属!



A5判・並製・
256頁・DVD付・
本体2400円＋税

目次

第一章 一眼／子どもと少年剣道の今を眼る
現代の子どもの体と心を見つめ直す／少年剣道の現状と課題／少年剣道に対する保護者の声

第二章 二足／少年剣道の足跡とこれから

現代剣道復活の道程とこれからの少年剣道／剣道の国際化と少年剣道の未来／少年剣道拡大の秘密を探る

第三章 三胆／指導者の胆力を求めて

少年剣道における指導者の在り方／文武両道と少年剣道／コミュニケーション力と人材育成の極意

第四章 四力／技の力を学ぶ

剣道のアイスブレイキング／礼法について／立礼と座礼／木刀・竹刀を使用した構えと素振りの対人的指導法／切り返しと段階的指導法／基本打突の打ち方と打たせ方／連続技の打ち方と打たせ方／払い技の打ち方と打たせ方／引き技の打ち方と打たせ方

第五章 残心

海外での剣道事情／中学校における剣道授業
あとがき



編集・発行 公益財団法人 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

◎好評発売中

筑波大学教授 酒井利信 著

四六判・上製・346頁・本体2400円＋税

刀剣の歴史と思想

刀剣を単なる武器としてではなく、
神聖なものとして捉える思想とは何か――



題字揮毫―鹿島神宮 鹿島則良 宮司

日本独自の展開をみせてきた刀剣に関する思想を、中国、朝鮮など、東アジアにまでルーツをたどりながら、確かな史料を基に考察。古事記・日本書紀に語られる神話、平家物語・太平記などにみられる三種の神器にまつわる記述、鹿島新當流、示現流に伝わる伝書といった歴史的文献を読み解き、日本刀剣思想のオリジナリティを浮かび上がらせる。

目次

序章	第二章 探求の旅をはじめににあたって
第二節	刀剣の歴史
第二章 刀剣思想の源流	
第二節	古代中国の宝剑伝説 太阿の剣
第二節	干将莫耶の宝剑伝説
第三節	高祖の斬蛇剣
第四節	道教と剣
第五節	古代朝鮮の刀剣思想
第二章 神話的イメージの形成	
第一節	神話的世界の形成と剣神の誕生
第二節	天より降る剣 節霊剣
第三節	天地を繋ぐ剣 草薙剣
第三章 信仰のなかの刀剣思想	
第一節	祀る剣 祀られる剣
第二節	辟邪の呪剣
第三節	うけいの呪術と剣
第四節	修験道と剣
第四章 中世における刀剣思想	
第一節	三種の神器の不思議
第二節	『平家物語』にみる三種の神器
第三節	『太平記』が語る草薙剣像
第五章 近世剣術における刀剣思想	
第一節	剣術伝書に語られる日本神話
第二節	新当流にみる霊剣の技術
第三節	示現流にみる心の利剣
第四節	近世剣術における刀剣思想の展開
第六章 近現代における刀剣思想	
第一節	近代以降の刀剣思想
第二節	古代と現代を繋ぐ刀剣
終章	鹿島神宮日本刀奉納鍛錬
	『稽古照今』

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

米国無門空手一行2度目の来日を歓迎

令和元年度米国 本多定晴先生一行武道交流事業



交流演武会で無門空手の演武を披露

5月30日から6月5日にかけて米国より無門空手一行4名が来日し、国際武道大学の協力を得て、2度目となる「令和元年度米国 本多定晴先生一行武道交流事業」を日本武道館などで実施した。

無門空手とは、松濤館の空手道を学んだ本多定晴先生が、流派にとらわれず、伝統的な空手道を米国で伝えていくために活動している団体である。

今回、本多定晴先生は検査入院のため、来日が叶わなかった。

※予定されていた本多先生の講義「最新アメリカ空手事情」を特別寄稿として本誌152～159頁に掲載しております。

▽5月30日（1日目） 一行は午前中に三輪田学園（東京都千代田区）を訪れ、中学校武道必修化に沿った内容の空手道授業を視察した。喜納

真由美三輪田学園中学校高等学校非常勤講師の「生徒を楽しませる授業」に一行は釘付け。視察を終えた代表のポール・コバックス氏は「三輪田の生徒の『礼』が素晴らしかった」と授業での武道の効果に感動した様子であった。喜納講師は「礼儀を中心とした授業を実施しています。アメリカの皆さんに私が大切に

していることが伝わりよかったです」と所感を寄せた。

その後、日本武道館に移動し、三藤芳生日本武道館常任理事・事務局長をはじめ、振興部普及課職員が総出で一行を出迎え、日本武道館大会議室にて昼食会を開催した。

三藤常任理事が「2度目の来日を心から歓迎いたします。楽しい懇談にしましょう」と歓迎の挨拶。和やかな雰囲気の中で用意された江戸前寿司に舌鼓を打った。食事中は、三藤常任理事が通訳を介さず英語で、



ジム・ドナルドソン氏
空手歴5年・三級



ウィリアム・トムキャニン氏
空手歴50年・三段



マーク・ワインガーデン氏
空手歴47年・三段



ポール・コバックス氏
空手歴47年・五段
無門師範



三藤芳生
日本武道館
常任理事・事務局長



「日本の武道事情」について説明する
三藤芳生日本武道館常任理事・事務局長



熱心に三輪田学園の空手道授業を視察する一行。左が喜納講師

日本武道館ロシア派遣事業のDVDを鑑賞しながら、日本武道館の国際交流事業について解説した。

小休止の後、岡林俊雄、柴田智敬、武道学園空手の両講師、吉井美恵子同なきなた講師と、福田聡早稲田大学空手部総監督、通訳担当の西木健氏が合流し、「日本の武道事情」をテーマに情報交換会が行われた。

続いて、岡林、吉井、柴田の三氏からそれぞれ武道学園での指導上の目的や武道修行の心得などについて話があった。短い時間ではあったが日本の武道事情をより深く理解することができたのではないかな。

一行は一度宿舎に戻った後、慶應義塾大学信濃町キャンパスの三田空手会本曜会へ出向き、2年振りとなる交流稽古に臨んだ。一同は再会を喜びながら、船越義珍翁伝来の空手を稽古し、心地よい汗を流した。

◎岩本明義三田空手会本曜会相談役「約100年前に船越義珍先生によって本土に伝えられた琉球唐手を体験してもらうことができました。空手道はバランスの良い心身を養う鍛錬として非常に有効です。空手の交流を通じて、稽古の厳しさと相手を尊敬

する優しさを学んでほしいです」

▽5月31日（2日目） 午後1時30分より、明治神宮至誠館弓道場・全日本弓道連盟中央道場において石川武夫範士九段（元全日本弓道連盟会長）を講師として、弓道体験会が行われた。

通訳を介して一人ずつ丁寧に解説と指導をする石川講師だが「どうしてもアーチェリーになっちゃうね」と課題を発見。一行は離れの時に右手を上手く離せずに西洋弓のような格好となってしまう。「左手は、弓を持つのではなく、輪を作つてそこに弓を通すイメージです。《会》の時に弦が張りますので、弓はしっかり抑えられ、離すと弓は回転します」。何も足さず何も引かない、日本的な美意識が含まれた合理的な所作に、一行はうなずき、各々感嘆の声を上げていた。それ以降も的には中らないものの、一行は一所懸命に射法を繰り返した。

体験会の終了後、ワインガーデン氏が「体の姿勢や求められる呼吸や集中力は空手に近いと感じました。特に離れの感覚が空手の追い突きの



ワインガーデン氏は初めての弓道体験で笑みがこぼれる。
左が石川武夫講師



三田空手会木曜会と無門空手一行。右から2人目が岩本氏。
左端が「空手道その歴史と技法」の筆者である和田光二氏



杖道体験



なぎなた演武

感覚と似ていました」と一つ一つ^う領^{りやう}きながら語ってくれた。

◎石川武夫範士九段

「一行の方々は武道をやっていたからある程度はできました。やっぱり武道をやっていますから、共通点もあるでしょう。皆さん同じ目的で稽古していると思います」

弓道体験後は、日本武道館小道場に移動し、夕刻より武道学園の授業を視察した。柔道は永福栄治講師が、剣道は太田忠徳講師が中心となつて武道学園生徒を指導。一行は目を凝らして1時間たっぷり見学し、この日の全日程を終了した。

▽6月1日(3日目) 日本武道館小道場で日本武道館武道学園との交流演武会が行われ、武道学園からは柔道、空手道、合気道、少林寺拳法、なぎなた、杖道の講師・生徒およそ70名が参加し、盛大に実施された。午後2時から開会式が行われ、はじめに主催者を代表して三藤常任理事が挨拶。次に、一行を代表してコバックス氏が挨拶。その後、なぎなたの吉井美恵子講師が講師を代表して挨拶を行った。

少林寺拳法、合気道、杖道、なぎなた、空手道の順に各種目25分で演武・体験が行われた。一行は演武者の一挙手一投足を熱心に見学した後、その技法を少しでも習得するべく、真剣な表情で体験に取り組んでいた。

各種目による演武・体験の後は、一行による無門空手の演武が行われた。コバックス氏による解説を交えながら、ワインガーデン氏とトムキヤニン氏によつて無門空手の入身と居合の演武が披露され、演武終了後には参加者から大きな拍手が送られた。

閉会式では鈴木達也日本武道館振興部長兼普及課長による主催者挨拶、コバックス氏による講評、空手道の岡林講師による講師代表講評が行われ、演武会は所期の目的を達成し、終了した。

演武会終了後、ホテルグランドパレスに場所を移し、三藤常任理事の主催者挨拶、柴田智敬空手道講師の乾杯で歓迎パーティーを開始。交流演武会を通して打ち解けた一行と武道学園講師・生徒は、アットホームな雰囲気の中、武道談義に花を

令和元年度米国 本多定晴先生一行交流演武会

International Exchange on Occasion of the Visit of the
Sadaharu Honda Delegation from the
United States of America Project 2019



演武会の参加者全員で記念撮影



松井完太郎国際武道大学副学長（左）より記念品が贈られた



武道大学学生と一緒に空手道の授業を体験。
右から4人目が荒川氏

咲かせた。

渡辺待男少林寺拳法講師による講師代表挨拶の後、日本武道館から一行一人ひとりに記念品が手渡され、パーティーは盛会裡に終了した。

▽6月4日 一行は国際武道大学に移動。午後1時10分より荒川尊祐同学特任准教授兼空手道部監督の指導のもと、3・4限の授業に参加した。3限目は競技空手の基本授業。4限目は形についての授業。流派ごとの動きや考え方の違いについて学んだ。一行は荒川准教授の丁寧な教えに対し、熱心に耳を傾け、生徒も一行との交流に積極的に取り組んだ。

次に一行は午後5時から国際武道大学空手道部の練習を見学した。学生たちの勢いのある稽古風景に真剣な眼差しを向ける一行であった。

◎荒川尊祐国際武道大学特任准教授
兼空手道部監督

「大変有意義な時を過ごしました。昔、空手が世界に広まる前にアメリカへ渡った本多先生の教えは、今でも日本の伝統的な空手として伝えられていることを、稽古に臨む彼らの姿勢から垣間見て取られました」

稽古終了後には研修センターで空手道部の学生と夕食会で親睦を深めた。松井完太郎国際武道大学副学長が駆けつけ、歓迎の挨拶を述べた。参加者たちはボディランゲージを混じえながら交流し、有意義なひとときを過ごした。

▽6月5日（最終日） 三藤常任理事と吉川英夫日本武道館事務次長兼研修センター所長が研修センターに出向き、記念品を贈呈した。一行は別れを惜しんで固い握手を交わし、今回の来日の感想とお礼を述べ、研修センターを後にした。



◎武道交流事業全日程を終えて
ポール・コバックス氏

「67歳の体にはハードなトレーニングでした（笑）。私たちは本多先生から指導を受けております。先生の空手は本物の日本の空手であり、昔から形を変えない伝統的な空手を学んでいます。今回の来日で改めて、全ての武道家が同志であり、全ての人々が共感できるものだと感じました。武道は全て繋がっている、これが私の今回学んだ全てです」

●最新刊

漫画家・
別府大学教授

田代しんたろう 著

マンガ・武道の偉人たち

武道の基礎を築いた偉人たちの生涯を描く！

マンガ・武道の偉人たち

田代しんたろう



日本武道館

B5判・302頁・本体1000円＋税

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」。

人気を博した「武道の偉人」シリーズが単行本化！

柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・銃剣道の現代武道9道の普及・発展に尽力した偉人たちの生涯を通じて、各道の歴史をひも解きます。

大人も子供も楽しく読んで、歴史も学べる武道教養マンガ。



収録偉人一覧

嘉納治五郎(柔道) 高野佐三郎(剣道) 阿波研造(弓道) 双葉山(相撲)
船越義珍(空手道) 植芝盛平(合気道) 宗道臣(少林寺拳法)
園部秀雄と美田村千代(なぎなた) 鶴沢尚信(銃剣道)



編集・発行 公益財団法人日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ:

THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット

(B5判・上製・DVD付・336頁)



武道

子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

(四六判・上製・376頁)

マンガ・武道のすすめ



(B5判・236頁)

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」を単行本化！
柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・
銃剣道・古武道の各先生方に毎回直接インタビュー取材し、武道の良さ、
すばらしさをおもしろく、わかりやすく、描いています。
大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。

合気道は4話を掲載！



多田宏先生



磯山博先生



菅沼守人先生



東北大学学友会合気道部



月刊「武道」は、全国の書店で販売しています。